

**重要****【ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンの予防接種を受けるに当たっての説明】**

予防接種を受ける前に、必ず記載されている内容をよく読み、十分理解してください。

説明文を読んで、もしわからないことがあれば、接種を受ける前に市役所健康増進課や接種医に質問しましょう。  
必ず納得された上でお子様に接種することを決めてください。

**ヒブ感染症とは、どんな病気？**

ヒブ(Hib)とは、「ヘモフィルス・インフルエンザ菌b型」という細菌の名前を略したものです(主に冬に流行するインフルエンザとは関係ありません)。この菌は、常在菌の1種で、多くは菌を鼻の奥に持っています。重い病気を引き起こすことはほとんどありませんが、免疫のない乳幼児の場合、重い感染症を起すことがあります。菌がのどや鼻から入って、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などのほか、ヒブ髄膜炎、敗血症、肺炎など症状の重い感染症を引き起こすことがあります。日本では、ヒブによる髄膜炎は、年間約600人が発症し、約30%に「運動麻痺、言語障害、寝たきり」などの後遺症が残ると言われています。患者の報告は0歳後半に多く、そのピークは生後8ヶ月頃となっています。ヒブワクチンは髄膜炎を始めとするヒブによる感染症全般を予防します。

ヒブワクチンは、製造の初期段階にウシの成分(フランス産ウシの肝臓および肺由来成分、ヨーロッパ産ウシの乳由来成分、米国産ウシの血液および心臓由来成分)が使用されていますが、その後の製造工程を経て、製造化されています。本剤接種による伝達海綿状脳症(TSE)伝播のリスクは理論上のリスクは否定できないものの、このワクチンを接種された人がTSEにかかる危険性はほとんどないものと考えられます。

**ヒブワクチン予防接種による副反応**

副反応とは、ワクチンを接種したことによって体に生じる不都合な反応のことで、以下のようなものがあります。

- (1) 重大な副反応 : ①アナフィラキシー様症状、②けいれん、③血小板減少性紫斑病  
(2) その他の副反応

種類	ヒブワクチン
5%以上	接種部位の紅斑(発赤)、腫脹、硬結、疼痛、不機嫌、不眠、食欲不振、下痢、嘔吐など
0.1~5%未満	じんましん、発疹、傾眠、神経過敏、異常号泣、口唇変色、咳、鼻炎、鼻出血、発熱、血色不良、結膜炎、皮膚肥厚など
頻度不明	アナフィラキシー様症状(じん麻疹、呼吸困難、血管・顔面・咽頭浮腫など)、けいれん、血小板減少性紫斑病、そう痒症、過敏症反応、注射部位の炎症症状、下肢浮腫

**肺炎球菌感染症とは、どんな病気？**

肺炎球菌は、細菌による子どもの感染症の二大原因のひとつです。この菌は多くの乳幼児の鼻の奥に定着しています。保菌者の全てが発症するわけではないですが、抵抗力が低下したときなどは誰でも発症する可能性があり、髄膜炎、敗血症、菌血症、肺炎、中耳炎などが引き起されます。

肺炎球菌感染症にかかりやすいのは、生後3ヶ月以降から5歳くらいまでで、患者数は、細菌性髄膜炎が5歳未満の小児10万人当たり年間約200人となっています。肺炎球菌感染症は2歳未満の乳幼児で特にリスクが高く、後遺症が残る場合や、死に至る場合もあります。

小児用肺炎球菌ワクチンは小児の肺炎球菌による感染症全般を予防します。主に成人に接種する成人用肺炎球菌ワクチンとは違うワクチンになります。

**小児用肺炎球菌ワクチン予防接種による副反応**

- (1) 重大な副反応 : ①アナフィラキシー様症状、②けいれん、③血小板減少性紫斑病  
(2) その他の副反応

種類	小児用肺炎球菌ワクチン
5%以上	接種部位の紅斑(発赤)、腫脹、硬結、疼痛、圧痛、感冒(鼻咽頭炎等)、嘔吐、食欲減退、仮眠状態、易刺激性、泣き、発熱
1~5%未満	発疹、じん麻疹、下痢

1%未満	血管神経性浮腫、呼吸困難
頻度不明	アナフィラキシー様反応、けいれん、血小板減少性紫斑病、じん麻疹様発疹、多形紅斑、気管支けいれん、無呼吸、皮膚炎、そう痒感、リンパ節症、不安定睡眠、筋緊張低下-反応性低下発作

**予防接種の注意事項**

- この説明書をよく読んで、**予防接種の必要性や副反応等について、よく理解してください。**
- 予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。各項目をよくお読みの上、保護者の方が責任をもって記入し、正しい情報を医師に伝えてください。
- 予防接種には必ず保護者が同伴して下さい。
- 接種を受ける前に、下の表の各項目に該当するかどうか、必ず確認してください。

予防接種を受けることが適当でない者	接種の判断を行うに際し、注意を要する者
<ul style="list-style-type: none"> <li>接種当日、発熱がある人 (37.5℃以上)</li> <li>重篤かつ急性の疾患にかかっている人</li> <li>ヒブワクチンの予防接種を受ける場合は、ヒブワクチンの成分又は破傷風トキソイドによってアナフィラキシーを呈したことが明らかかな者</li> <li>小児用肺炎球菌ワクチンの予防接種を受ける場合は、小児用肺炎球菌ワクチンの成分又はジフテリアトキソイドによってアナフィラキシーを呈したことが明らかかな者</li> <li>上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎疾患を有する者 (心臓血管系疾患・じん臓疾患・肝臓疾患・血液疾患・発育障害等)</li> <li>予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた者および全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある者</li> <li>過去にけいれんの既往のある者</li> <li>過去に免疫不全の診断がなされている者および近親者に先天性免疫不全症の者がいる者</li> <li>ヒブワクチンの予防接種を受ける場合は、ヒブワクチンの成分又は破傷風トキソイドに対してアレルギーを呈するおそれのある者</li> <li>小児用肺炎球菌ワクチンの予防接種を受ける場合は、小児用肺炎球菌ワクチンの成分又はジフテリアトキソイドに対してアナフィラキシーを呈すおそれのある者</li> </ul>

**接種後の注意**

- 予防接種後30分間は急な副反応が起こることがありますので、医師と連絡が取れるようにしておきましょう。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。接種当日は激しい運動は避けて下さい。もし、接種部位の異常反応や体調に変化が起きたら速やかに医師の診察を受けてください。医師の診察を受けた場合は市役所健康増進課に連絡をしてください。(Tel 055-284-6000)
- 予防接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の発現に注意してください。
- 接種部位は清潔に保ち、こすらないようにしてください。当日の入浴は差し支えありませんが、激しい運動は避けましょう。

**健康被害救済制度について**

- 定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。
- 健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。
- ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因(予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等)によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。
- ヒブワクチン小児用肺炎球菌ワクチンは接種間隔が決まっています。その期間を過ぎて接種を希望する場合、予防接種法に基づかない接種(任意接種)として取り扱われます。その接種で健康被害を受けた場合は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済を受けることとなりますが、予防接種法に比べて救済の額が概ね二分の一(医療費・医療手当・葬祭料については同程度)となっています。

※給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、保健所、市役所健康増進課へご相談ください。